

## 2025年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年2月14日

上場会社名 東和ハイシステム株式会社 上場取引所 東  
コード番号 4172 URL <https://www.towa-hi-sys.co.jp/>  
代表者（役職名）取締役社長執行役員（氏名）飯塚 正也  
問合せ先責任者（役職名）経理部部长（氏名）児玉 祐輔 (TEL) 086-243-3003  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無 : 無  
決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

## 1. 2025年9月期第1四半期の業績（2024年10月1日～2024年12月31日）

（1）経営成績（累計）（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年9月期第1四半期	611	29.9	170	206.6	202	83.8	135	82.1
2024年9月期第1四半期	470	△31.6	55	△69.7	109	△40.8	74	△40.5

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	売上高 営業利益率	売上高 経常利益率	売上高 当期純利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2025年9月期第1四半期	60.60	—	27.8	33.1	22.1
2024年9月期第1四半期	33.28	—	11.8	23.4	15.8

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年9月期第1四半期	4,342	3,980	91.7
2024年9月期	4,375	3,934	89.9

（参考）自己資本 2025年9月期第1四半期 3,980百万円 2024年9月期 3,934百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年9月期	—	30.00	—	58.00	88.00
2025年9月期(予想)	—	44.00	—	44.00	88.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. （1）2025年9月期の業績予想（2024年10月1日～2025年9月30日）

（%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,144	4.0	285	9.2	390	0.0	267	0.5	119.84
通期	2,220	5.0	486	15.1	600	2.1	410	2.0	184.02

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

（2）経営指標

	株価収益率 (PER)	株価純資産倍率 (PBR)	自己資本利益率 (ROE)
	倍	倍	%
2025年9月期(予想)	10.3	1.1	10.3
2024年9月期	10.3	1.1	10.5

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2025年9月期1Q	2,228,000株	2024年9月期	2,228,000株
2025年9月期1Q	76株	2024年9月期	76株
2025年9月期1Q	2,227,924株	2024年9月期1Q	2,227,951株

(4) 3. (2) 経営指標の計算方法については以下の通りです。

PERは株価終値を1株当たり純利益(2025年9月期は業績予想数値を使用)で割って計算しております。  
PBRは株価終値を1株当たり純資産で割って計算しております。  
ROEは純利益(2025年9月期は業績予想数値を使用)を期中平均の純資産で割って計算しております。  
2025年9月期(予想)の株価は2024年12月30日終値の1,900円で計算しております。

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査 : 無  
法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「1.経営成績等の概況 (3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期累計期間の財政状態の概況	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期累計期間の経営成績の概況

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善に向かい、緩やかな回復基調は続いているものの、コロナ禍での経済的支援が終了し、財務内容が正確に反映されるようになったことで、税金滞納や不正受給などのコンプライアンス違反等による2024年の倒産件数は11年ぶりの高水準となる等、新たな課題に直面しています。

そのような中、歯科業界においても急速な医療DX推進に対応できないなどを理由に長く地域医療を支えてきた歯科医師の休廃業・解散件数が過去最多を更新すると共に同業他社の民事再生法申請や売上債権回転期間が大幅に悪化するなど極めて深刻な状況にあります。

一方、令和6年5月23日に世界経済フォーラムで歯周病と全身疾患（糖尿病・人工透析・認知症・心筋梗塞等）との関係などを例に口腔衛生の重要性を強調する内容の白書が発表されるなど、今後は歯科医院の経営を「治療から予防へ」変革していくと共に生産性向上や業務効率の改善、大幅な時間短縮を図ることが不可欠となっています。しかしながら、歯科衛生士をはじめとした医療従事者の不足や歯周病専門医の不足といった社会問題と医療DX推進へ向けた助成金・補助金に係る情報提供や説明が当社以外の同業他社はほとんど実施されていないことを問題視せざるを得ません。

そこで当社は、小児から通院が難しくなったご高齢の患者さままで一生のかかりつけ歯科医として、医療DXの観点から助成金・補助金を活用した訪問診療支援ソフトや医歯薬連携によって歯科への期待がさらに高まる中、併用禁忌・重複投薬を防止する電子処方箋支援ソフトの開発・販売に注力すると共に主力商品であるAI・音声シリーズ第1弾「AI・音声電子カルテ統合システム (Hi Dental Spirit AI-Voice)」、第2弾「AI・音声歯周病検査 (Perio chart Pro. Voice)」、第3弾「AI・音声サブカルテ (Sub Karte-Voice)」のさらなる拡販へと繋げ、医院収入の拡大や医療費の抑制、その先にある国民のQOL向上「生きる幸せ」へと貢献して参りました。

このような取り組みの結果、当第1四半期累計期間の業績は、売上高611,380千円(前期比29.9%増)、営業利益170,173千円(前期比206.6%増)、経常利益202,128千円(前期比83.8%増)、純利益135,006千円(前期比82.1%増)と大幅な増収増益となりました。

さらに自己資本比率91.7%、売上高経常利益率33.1%、売上高純利益率22.1%と過去最高の経営指標となり、2025年9月期予想ベースで PER 10.3倍、PBR 1.1倍、ROE 10.3%となっております。

(2) 当四半期累計期間の財政状態の概況

(資産)

当第1四半期会計期間末における総資産は4,342,428千円となり、前事業年度末と比較して33,286千円減少いたしました。

a. 流動資産

流動資産は2,051,730千円となり、前事業年度末より67,843千円増加いたしました。主な内訳は、預け金の増加232,697千円と、現金及び預金の減少210,392千円、売掛金の増加66,794千円であります。

b. 固定資産

固定資産は2,290,698千円となり、前事業年度末より101,129千円減少いたしました。主な内訳は、ソフトウェアの減少11,508千円、投資有価証券の減少49,805千円、繰延税金資産の減少37,383千円であります。

(負債)

当第1四半期会計期間末における負債は362,418千円となり、前事業年度末と比較して79,200千円減少いたしました。

a. 流動負債

流動負債は308,147千円となり、前事業年度末より79,250千円減少いたしました。主な内訳は、買掛金の増加10,488千円、未払法人税等の減少85,975千円、預り金の増加26,230千円、賞与引当金の減少12,729千円であります。

b. 固定負債

固定負債は54,271千円となり、前事業年度末に比べて大きな増減はありませんでした。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産は3,980,009千円となり、前事業年度末と比較して45,913千円増加いたしました。前事業年度に係る配当金の支払いが129,219千円生じた一方、四半期純利益を135,006千円計上したことにより利益剰余金が5,786千円増加、その他有価証券評価差額金が40,126千円増加したことによるものであります。

(2) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期累計期間において、当社が優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第1四半期累計期間の研究開発費の総額は、19,482千円であります。なお、当第1四半期累計期間において当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(4) 経営成績に重要な影響を与える要因

当第1四半期累計期間において、当社の経営成績に重要な影響を与える要因について、重要な変更はありません。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年9月期の業績予想につきましては、2024年11月14日に「2024年9月期決算短信[日本基準] (非連結)」にて公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

今年は、いよいよ生涯を通じた歯科健診（いわゆる国民皆歯科健診）がスタートすると共に昭和22～24年生まれの団塊の世代約800万人が全て75歳以上となり、日本国民の4人に1人が後期高齢者という超高齢化社会を迎えます。国民1人当たりの年間医療費は75歳以上（約92.3万円）と75歳未満（約26.0万円）で約4倍の差となり、増え続ける国の医療費を抑制する為には、健康で元気な高齢者を増やすこと、即ち、「治療から予防へ」歯周病根絶による国民の健康寿命の延伸こそが不可欠です。ところが、約6.6万歯科医院で37.7%が1人も衛生士がいないのです。また、約10万人の歯科医師で歯周病専門医が1.2%しかいないのです。さらに医療DX推進へ向けた助成金・補助金に係る情報提供や説明が当社以外の同業他社はほとんど実施されていないのです、これが歯科業界の現状です。

だからこそ当社は「Revoriuture<sup>※1</sup>(レボリューチャー) 新たな世界へ！」を合言葉に歯科業界に革命を起こし歯科医療の未来を明るく照らして参る所存です。具体的には歯科医院の経営を「治療から予防へ」小児から通院が難しくなったご高齢の患者さままで一生のかけつけ歯科医として変革を支援、その為に医療DX推進へ助成金・補助金を活用した支援ソフトの販売をより一層強化すると共に主力商品であるAI・音声電子カルテ統合システム (Hi Dental Spirit AI-Voice)、AI・音声歯周病検査 (Perio chart Pro. Voice)、AI・音声サブカルテ (Sub Karte-Voice) を「歯科DX三種の神器」と銘を打って拡販することで、医院収入の拡大・医療費の抑制、そして生命維持の根源である「噛む喜び・食べる楽しみ・生きる幸せ」へと貢献して参ります。

このような取り組みにより、2025年9月期は連続最高益更新、及び、連続売上高経常利益率・純利益率更新を目指すと共に、創業50年を迎える2027年9月期において3,000歯科医院を超えるAI・音声シリーズを拡販することで、売上高35億円 経常利益10億円 売上高経常利益率28.5% 純利益7億円 売上高純利益率20.0%を上回る達成を目指して参ります。是非とも、ご期待ください。

※1 Revoriuture(レボリューチャー)はRevolution(革命・変革)とBrightly(明るく・煌々と)とFuture(未来・将来)を組み合わせた当社世界観の造語です。AI・音声シリーズで「歯科に革命を起こして未来を明るく照らす！」という思いを込めています。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年9月30日)	当第1四半期会計期間 (2024年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,605,117	1,394,724
売掛金	168,646	235,440
商品	183,016	161,976
前払費用	26,336	22,980
未収入金	769	3,710
預け金	—	232,697
その他	—	198
流動資産合計	1,983,887	2,051,730
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	305,274	300,967
構築物（純額）	1,966	1,920
車両運搬具（純額）	6,303	5,663
工具、器具及び備品（純額）	30,630	35,143
土地	349,929	349,929
有形固定資産合計	694,105	693,624
無形固定資産		
ソフトウェア	126,741	115,232
ソフトウェア仮勘定	80,600	80,600
その他	1,912	1,886
無形固定資産合計	209,254	197,719
投資その他の資産		
投資有価証券	1,388,630	1,338,825
敷金及び保証金	37,011	35,105
繰延税金資産	62,049	24,666
その他	777	758
投資その他の資産合計	1,488,468	1,399,355
固定資産合計	2,391,828	2,290,698
資産合計	4,375,715	4,342,428

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年9月30日)	当第1四半期会計期間 (2024年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	24,891	35,379
未払金	119,601	122,085
未払法人税等	136,879	50,903
未払消費税等	46,000	41,133
預り金	4,441	30,672
賞与引当金	12,729	—
その他	42,853	27,972
流動負債合計	387,397	308,147
固定負債		
退職給付引当金	54,222	54,271
固定負債合計	54,222	54,271
負債合計	441,619	362,418
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	343,080	343,080
資本剰余金	297,480	297,480
利益剰余金	3,342,235	3,348,022
自己株式	△130	△130
株主資本合計	3,982,665	3,988,452
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△48,569	△8,442
評価・換算差額等合計	△48,569	△8,442
純資産合計	3,934,096	3,980,009
負債純資産合計	4,375,715	4,342,428



(2) 四半期損益計算書  
第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)	当第1四半期累計期間 (自 2024年10月1日 至 2024年12月31日)
売上高	470,522	611,380
売上原価	119,437	127,527
売上総利益	351,085	483,853
販売費及び一般管理費	295,574	313,679
営業利益	55,510	170,173
営業外収益		
受取利息	2	1
有価証券利息	5,509	3,032
受取配当金	5,000	3,400
受取手数料	275	150
投資有価証券売却益	43,344	24,977
その他	319	391
営業外収益合計	54,449	31,954
経常利益	109,960	202,128
税引前四半期純利益	109,960	202,128
法人税、住民税及び事業税	26,111	47,314
法人税等調整額	9,705	19,807
法人税等合計	35,816	67,121
四半期純利益	74,143	135,006

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

**【セグメント情報】**

当社は、歯科医院向けシステム事業の単一セグメントであり重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)	当第1四半期累計期間 (自 2024年10月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	18,862千円	19,290千円